

Be a Learner 対話のひろば

対話を通して、思考力・判断力・表現
力を測る問題をつくろう！

—地理編—

大学入学共通テストの問題作成方針

令和3年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(大学入試センター 2019.6.7公表)

大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

これまで問題の評価・改善を重ねてきた大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ、高等学校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながら問題を作成する。

令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(大学入試センター 2019.6.7公表)

高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成

平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、**知識の理解の質を問う問題**や、**思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題**を重視する。

また、問題作成のねらいとして問いたい力が、高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力を明確にした上で問題を作成する。

「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。

地理(地理A, 地理B)の問題作成の方針

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

地理の「思考力・判断力・表現力」のイメージ—大学入試センターによる—

【地理】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p>【考察・構想(注)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる ●地理的な課題を把握し、その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる 	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って結論をまとめることができる ・結論について検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる <p>○作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的な課題を探究する活動を通して、その解決や持続可能な将来の在り方を展望する場面 ・資料から地理的事象を読み取り、地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や課題について説明したりする場面 ・新たな発見や理解の深化を見だし、改めて課題を設定し、情報の収集、整理・分析を行っていく場面
--	---

<p>大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」</p>	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる
	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる	
	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる	
	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる	
	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる	
	地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想（選択・判断）することができる	

（注）構想については、社会科学科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

- 自由記述では、以下のことを問える可能性がある。
- ・主題図などの資料を、適切に作成することができる
 - ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、構想した結果、地域調査や諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
 - ・現代世界の地理的な課題の解決について、自らの解釈も加えて意見を形成し、適切に表現することができる
 - ・課題に対して、具体的な解決策を提言することができる

「思考力・判断力・表現力」の項目別設問数と正答率(第1回)

	主に問いたい資質・能力／思考力・判断力・表現力	設問数	正答率
①	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる	4	52.2%
②	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる	5	36.6%
③	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる	6	46.0%
④	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる	3	57.5%
⑤	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる。	2	58.1%
⑥	地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想(選択・判断)することができる	1	35.5%
⑦	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる	3	74.3%

「思考力・判断力・表現力」の項目別設問数と正答率(第2回)

	主に問いたい資質・能力／思考力・判断力・表現力	設問数	正答率
①	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる	7	45.5%
②	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる	6	49.1%
③	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる	5	66.7%
④	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる	5	66.4%
⑤	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる。	3	73.1%
⑥	地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想(選択・判断)することができる	1	85.5%
⑦	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる	1	64.6%

地理の入試問題を解くために必要な力

地理における知識・技能とは一身につけておかなければならない基本的な力

地理における知識・技能は、系統地理と地誌に大別され、各学習項目に対して以下の各3段階がある。特に技能については、「地理的技能」と呼ばれるとおり、他教科の定義とは異なり、単純なもの(例:等高線の読み取り)だけでなく、思考力(情報収集・分析)を要するもの(写真データからの読み取り)まで多岐に渡る。

<系統地理>

段階1: 基本的知識・理論・スキルを身に付ける。

段階2: 段階1をもとに理解考察する。

段階3: 理解を深め、自らの考察を表現する。

<地誌>

段階1: 地域的特色に関する基礎的・基本的知識を習得する。

段階2: 地域的特色と地域的課題を考察・理解する。

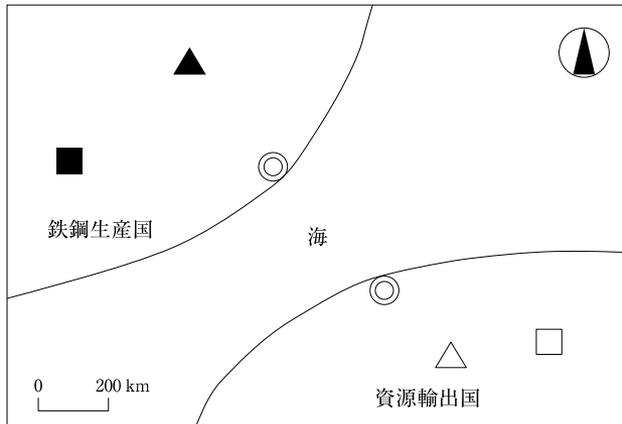
段階3: 地域的特色と地域的課題を多面的・多角的に探究・展望させ、自ら考察を表現する。

思考力・判断力・表現力を問う問題例

サンプル No. 1 (大学入学共通テスト試行調査2018年) 第2問

問 3 ㉔に関して、資源使用量の変化とともに製鉄所の立地は変化してきた。次の図 2 は、仮想の地域を示したものであり、下の枠は地図中の凡例および仮想の条件である。このとき、次ページの図 3 中のア～ウは、1900 年前後、1960 年前後、2000 年前後のいずれかにおける鉄鋼生産国の製鉄所の立地場所を示したものである。輸送費の観点から年代順で立地の変化を考えたとき、年代とア～ウとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。ただし、地図で示されていない自然環境や社会環境は条件として考慮しない。

9



<凡例および仮想の条件>

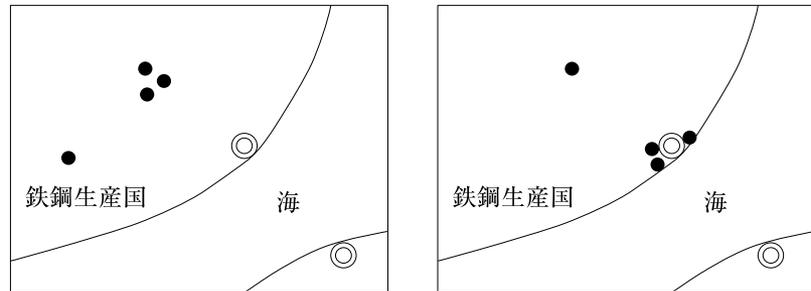
- ・■石炭, ▲鉄鉱石・・・坑道掘り
- ・□石炭, △鉄鉱石・・・露天掘り
- ・図中の◎は貿易港をもつ都市を示している。
- ・1970 年代以降、坑道掘りは産出量が減少する一方、露天掘りは産出量が増加して、図中の南東側の国が資源輸出国となったとする。
- ・次ページの表 2 は、鉄鋼製品 1 トン当たりの石炭と鉄鉱石の使用量の推移を示している。

図 2

表 2 鉄鋼製品 1 トン当たりの石炭と鉄鉱石の使用量の推移

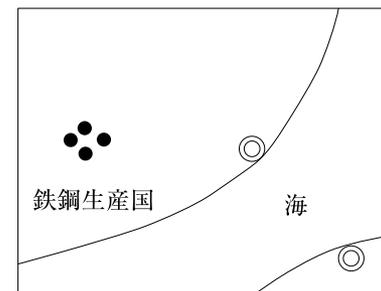
(単位：トン)

	1901 年	1930 年	1960 年	1970 年	2000 年
石炭	4.0	1.5	1.0	0.8	0.8
鉄鉱石	2.0	1.6	1.6	1.6	1.5



ア

イ



ウ

- 製鉄所
- ◎ 貿易港をもつ都市

図 3

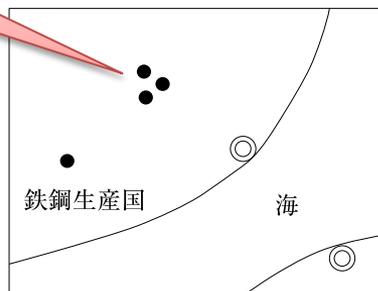
サンプル No. 1 (大学入学共通テスト試行調査2018年) 第2問

表 2 鉄鋼製品1トン当たりの石炭と鉄鉱石の使用量の推移

(単位：トン)

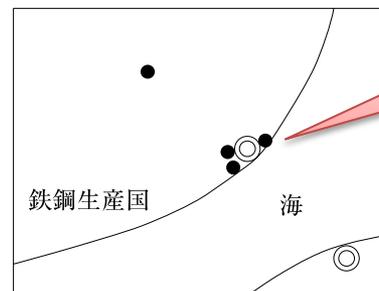
	1901年	1930年	1960年	1970年	2000年
石炭	4.0	1.5	1.0	0.8	0.8
鉄鉱石	2.0	1.6	1.6	1.6	1.5

炭田立地型
(1900年前後)



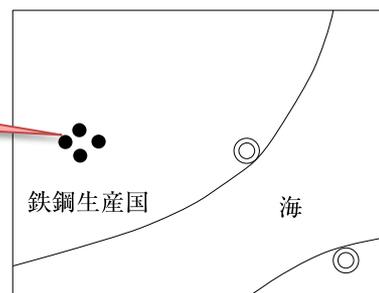
ア

港湾立地型
(2000年前後)



イ

鉄山立地型
(1960年前後)



ウ

- 製鉄所
- ◎ 貿易港をもつ都市

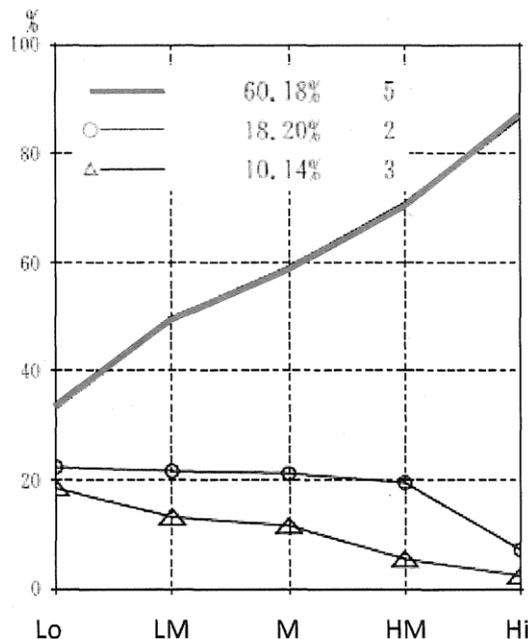
図 3

・ 仮想立地に関する問題

第2問問3
(解答番号9)

多肢選択
選択肢数6

正答率 60.18%



最上位層の正答率は85%を超え、最下位層では35%程度で、学力の識別力が高い。

様々な条件を付した仮想地域を設定し、工業立地に関わる要因について概念的な理解ができているかを問うた設問である。正答率が60.18%であり、Lo群とHi群の差が50ポイントほどと識別力も高かった。

仮想地域を題材にした設問は、教科書の記述や用語など単純な知識・理解だけでは解答に結びつかず、学んだ知識を踏まえ思考力を活用して判別するものとなり、有効であると考えられる。

サンプル No. 1 (大学入学共通テスト試行調査2018年) 第5問

問 4 大分市で多くの保育所待機児童*が報告されていることを知ったリョウさんは、「なぜ大分市で保育所不足が生じたのだろう」という問いをもち、いくつかの資料をみながらサツキさんと仮説を立てた。次の図5は、リョウさんとサツキさんが考えた仮説を示しており、図中の資料D～Fには、**仮説を考えるもととなった資料**として、次ページの図6中のカ～クがそれぞれ当てはまる。D～Fとカ～クとの組合せとして最も適当なものを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

30

*保育所への入所を希望して入所できない児童のうち、一定の基準を満たす者。

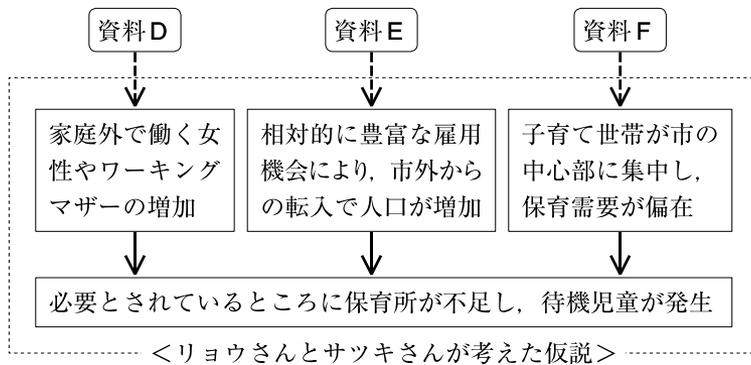
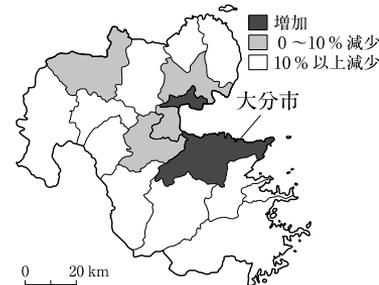
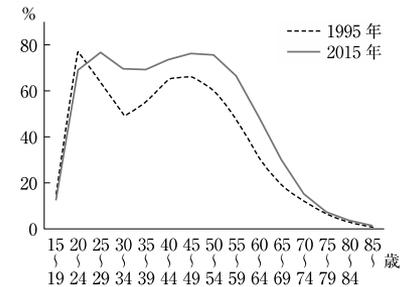


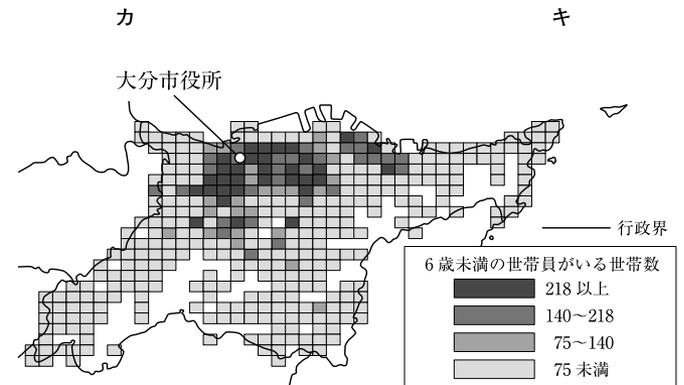
図 5



大分県内の人口増減率
(1995～2015年)
行政界は2015年時点。
国勢調査により作成。



大分市の女性の年齢階級別労働力率
(1995年・2015年)
国勢調査により作成。



6歳未満の世帯員がいる世帯数の1kmメッシュマップ(2015年)
メッシュのない範囲はデータなし。
国土地理院の資料により作成。

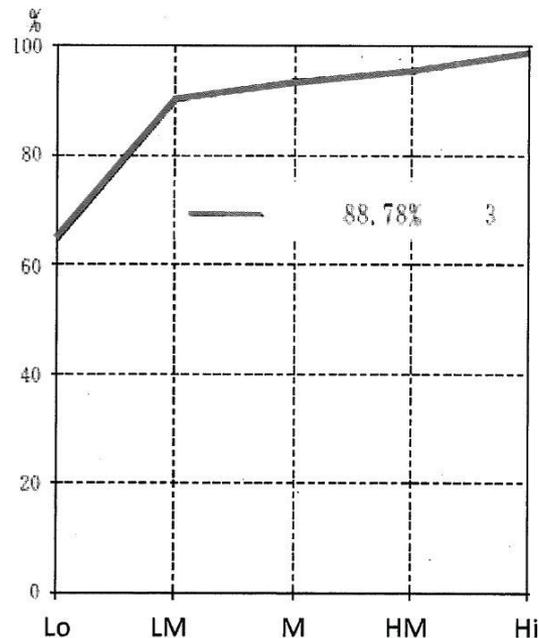
ク
図 6

②正答率が高かった問題

第5問問4
(解答番号30)

多肢選択
選択肢数6

正答率 88.78%



仮説のもととなる資料が適切で、説得力があるほど問題としては容易で、学力の識別力は低くなってしまいう傾向がある。

地域調査の問題では、地域の課題を見出し、解決策を考えていくことが望まれる。そのため、収集できる資料から仮説を導き出し、地域課題について俯瞰的に思考する力を判別する設問を作成した。

正答率が高くなった理由としては、仮説と資料を結びつけることが容易であったことが推測できる。

識別力を高めるための改案

大分市で多くの保育所待機児童が報告されていることを知ったリョウさんは、いくつかの資料をみながらサツキさんと保育所不足の要因を考えた。次の図 5 から、リョウさんとサツキさんが保育所不足の要因を述べた次の会話文の下線部 a～c について、正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

サツキ「以前に比べて待機児童が増えているのは、 a 家庭外に仕事に出る女性の割合が増えているからだろうね」

リョウ「大分市でとくに問題となっているのは、 b 県内の他の自治体に比べ就業の場が多く、子育て世代の人たちの流入も多いからかな」

サツキ「6歳未満の児童のいる世帯が多い中心部は、 c 新たな保育所をつくるための敷地が不足しているだろうね」 □

リョウ「土地の問題だけでなく、保育施設を増やすには子供を預かる資格をもった保育士を確保することが必要で、解消するのはそう簡単ではないようだね」

□	①□	②□	③□	④□	⑤□	⑥□	⑦□	⑧□
a □	正 □	正 □	正 □	正 □	誤 □	誤 □	誤 □	誤 □
b □	正 □	正 □	誤 □	誤 □	正 □	正 □	誤 □	誤 □
c □	正 □	誤 □	正 □	誤 □	正 □	誤 □	正 □	誤 □

作問体験

—地理の入試問題を作成する—

◆問題作成にあたって

1. 次の観点が盛り込まれるよう工夫してください。
 - (1) 思考力・判断力・表現力を測ることができるか。
 - (2) 学力の識別力があるか。
 - (3) 問題の独自性があるか。
2. 資料（素材）は、今回用意したものの他に、一般的な統計書（国勢社，帝国書院，二宮書店，古今書院の統計），白書，各国政府統計局，国際機関のHPなどで得られるデータを使用してもかまいません。
3. 問題用紙はB5版，モノクロをイメージしてください。
4. 地図，図版はラフなものでかまいませんが，印刷による仕上がりをイメージし，大きさ，精度（カラー不可，グレースケールも読み取り可能な範囲）に注意してください。
5. 基本的な知識・技能をもとに，思考力・判断力・表現力を測るための問題を工夫してください。
6. 難易度は大問全体を示し，小問ごとに傾斜をつけてかまいません。
7. 論述式は，採点ポイントも示してください。
8. 解答に要する時間は各大問とも20分程度を想定してください。

◆問題作成のテーマとフレーム

	分野	使用素材	備考 (形式・テーマの例)	グループ
A	地図と地理情報	世界地図	【形式】 <input type="checkbox"/> マーク式（選択式）または論述式 <input type="checkbox"/> 論述式は 50～100 字程度 【テーマの例】 <input type="checkbox"/> 自然環境の特徴と自然災害の発生数との関連 <input type="checkbox"/> 自然災害と経済的状況との関連 <input type="checkbox"/> 自然災害と人口分布との関連	
B	比較地誌 (国のタイプ分け)	統計資料 (グラフまたは表)	【形式】 <input type="checkbox"/> マーク式（選択式）または論述式 <input type="checkbox"/> 論述式は 50～100 字程度 【テーマの例】 <input type="checkbox"/> エネルギーに関する統計資料をもとに複数の国をタイプ分けする <input type="checkbox"/> 消費構成，自給率，1 人当たり供給量，経済水準など <input type="checkbox"/> エネルギー問題，環境問題にもふれる	
C	地域調査（身近な地域を調べる）	地形図	【形式】 <input type="checkbox"/> マーク式（選択式）または論述式 <input type="checkbox"/> 論述式は 50～100 字程度 【テーマの例】 <input type="checkbox"/> 土地利用の変化と時代背景 <input type="checkbox"/> 地域の抱える問題（防災，住民構成など） <input type="checkbox"/> 持続可能な地域社会への展望	

作問の素材：テーマA

□EM-DATによる国別自然災害※発生件数(1986～2015)

drought(干ばつ), earthquake(地震),

extreme temperature(異常気温), flood(洪水)

landslide(地すべり), storm(暴風雨), volcanic activity(火山活動)

※死者が10人以上, 被災者数が100人以上, 政府が非常事態を宣言, 政府が国際支援を正式に要請, という4つの基準のうち少なくとも1つを満たすもの。

□プレート分布図

□現在の外的地形形成作用の組み合わせによる地域区分図

□世界の主要河川の侵食速度の分布図

□世界の主要河川の流域面積と比流量

□世界の地質構造

作問の素材：テーマB

- 主要国の一次エネルギー供給の構成
- 主要国の一次エネルギーの純輸出入
- 主要国の一次エネルギー自給率と1人あたり供給
- 主要国の発電量エネルギー源別割合
- 主要国の二酸化炭素排出量
- 国別基本統計
(面積, 人口, 人口密度, 国内総生産, 1人あたりGNI, 貿易額)

作問の素材：テーマC

□茨城県の小貝川沿い地域（取手市，龍ヶ崎市，利根町）の地形図

・2万5000分の1地形図（1996年，2006年）

・2万分の1迅速図（1880～1886年）

□同地域のハザードマップ（洪水，地震，土砂災害）

□1970年代前半に開発された住宅団地の人口ピラミッド

（1995年，2015年）